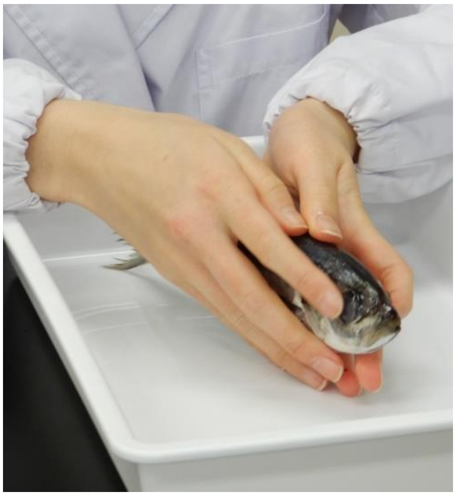
生徒が観察対象物を触る方向

筑波大学附属視覚特別支援学校
武井　洋子

観察対象物を自分と向かい合わせにして観察するのは、視覚を使うことを常としている人の癖かもしれません。教科書の図も写真も正面から見たものですし、模型をみるときも向かい合わせで見ています。しかし、触ることで観察する（触察する）人、特に児童・生徒にとって、その方向は理解しにくく、そして発見したことを表現するときに混乱する場合が多いと思われます。

対象物を観察するときには、写真のように、児童・生徒と同じ向きにして触らせることをお勧めします。



アジの前と生徒の前が同じになる。
アジの右側面を生徒の右手で、
アジの左側面を生徒の左手で触る。

カレイの右を右手で、左を左手で。
この直後、カレイを挟んだ両手を
90°左方向に回転させ、カレイは
右を上に左を下にして生活している
ことを示す。

ハトの全身骨格標本を観察
している場面。
左は、後肢の指の様子を自分
の手で示している。
右は、翼の様子を全身で示し
ている。